

農村ツーリズム展開方針

令和 2 年 (2020 年) 6 月 17 日
上川総合振興局

1 地域の現状

上川管内は、北海道のほぼ中央に位置し、大雪山系を中心とした山々に囲まれ、四季により多彩な景色を見せる。そのような景色の下、高品質米や、多種多様な野菜、ワイン用ぶどうのほか、生産量日本一を誇るそばやもち米が生産されており、観光果樹園や中山間地及び広大な草地などの地形を活かした放牧が行われるなど多様な農業形態が見られるとともに、加工や販売にも取り組む 6 次産業化も盛んに行われている。

また、全道で最も広大な森林面積を有し、森林の循環利用を進めるため、適切な森林施業と併せて道産木材・木製品の利用促進を図っており、家具の生産も盛んであるとともに、大雪山系等の水資源を利用した養殖業のほか、朱鞠内湖等において漁業が営まれており、これらの一部区域では遊漁を楽しむことができる。

観光面では、JR の交点であり旭川空港も有する地理的特性や旭山動物園、富良野・美瑛観光圏、大雪山や天塩川など豊かで多彩な観光資源を有しており、近年海外からの観光客をより積極的に受け入れるための投資も進められている。

2 地域の抱える課題

農村地域においては、少子高齢化や、人口減少等により、農林業の担い手不足が深刻な課題となっており、農林業の生産力が低下するだけでなく、地域コミュニティの維持が困難になるなど、地域の活力の低下が懸念されている。

また、農家に滞在し農業体験をする教育旅行の要望が道内外から数多く寄せられ、長年にわたり受入を進めているものの、受入主体数の不足から要望に十分応えられていない状況である。

観光面では、札幌圏に近いことから通過型観光地の傾向が強いことに加え、観光客が夏季に集中する季節偏在や、南部に集中する地域偏在の課題があるとともに、地域によっては畑などの敷地内に観光客が無断で足を踏み入れる被害が増えてきており、農業と観光が共存できる対策が求められている。

3 今後の展開方針

農村地域及び、地域経済の持続的発展を図るため、大雪山系の豊かな自然が生み出す雄大な景観、農林業や家具工業などの地域産業のほか、地域に点在する様々な食資源とそれを創り出す人々の存在とともに上川の魅力を存分に発信し、交流人口の増加を図る。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、「北海道スタイル」を実践した中で、取組を展開していくこととする。

〔具体的展開〕

- ★ 上川らしいフードツーリズムの推進
 - ・新しい食資源の掘り起こしと魅力向上
 - ・農林漁業者を含めた多様な受入主体の連携を促進
 - ・冬季観光の充実等新たなアクティビティの開発及び磨き上げ
 - ・体験型観光や周遊型観光など北部地域の観光の振興
- ★ 教育旅行の推進
 - ・教育旅行における受入主体の負担軽減と、新たな受入主体の確保に向けた取り組み